

北白川EFEOサロン 2018-2019
日本における宗教と民衆への教え（16～19世紀）



歌川 国芳 《高祖御一代略図》 [建治三年九月身延山七面神示現]
都立中央図書館特別文庫室所蔵

2019年 1月 25日（金） 18:00～

寺院所蔵の幽霊画
—その意味と縁起、口碑、図像—

講師：堤 邦彦（京都精華大学・教授）

コメンテーター：フランソワ・ラショー（フランス国立極東学院・教授）

日本各地の寺院に秘蔵される幽霊画は美術品か？それとも宗教儀礼の呪具か？この問題は、もちろん二者択一可能なものではないが、すくなくともこれまでの幽霊画の研究に宗教民俗の視点が十分生かされてきたとは言い難い。ここでは、そのような観点から寺蔵幽霊画の宗門的な意味や民俗儀礼との連続性を考えてみたい。とくに女霊救済をテーマにかかげる高僧伝との比較から、死者図像作成の意味の多くの部分に、祟る女の鎮魂と高僧の称揚といった目的性をみとめることができるだろう。

さらにまた、かような宗教文化の延長に、旅する画聖の伝承が派生し、応挙作品をめぐる訛伝、俗伝の四散をもたらした点も考えられるのではないか。

場所：フランス国立極東学院京都支部（EFEO Kyoto）



使用言語：日本語

研究者・学生対象

要事前申込

efeo.kyoto@gmail.com

または

075-701-0882 まで